

「新市立病院の運営について」

1. はじめに

現市立病院は施設・設備の老朽化が進み、箕面市船場東1丁目のCOM1号館跡地への移転建替が決定している。しかし、法により市が単独で移転建替をすれば現状の急性期病床267床規模の病院の建設しか認められないことから、「新市立病院整備審議会」を立ち上げ、病院の機能や規模について再度検討した。その結果、国が推進する再編統合制度を活用し、今後の医療需要に見合う規模の病院にすべきとの方針が出された。

再編統合制度を活用すれば、新市立病院は公立病院として箕面市が整備し、再編統合先の医療法人が指定管理者として運営を担うことになる。

このような背景から、民生常任委員会として集中して調査、研究を行う必要があると考え、「新市立病院の運営について」を調査テーマに決定した。

2. 調査経過

日 時	活 動	概 要
R 4. 11. 5 R 4. 11. 12	地域別意見交換会	「新市立病院の運営について」をテーマに、グループディスカッション形式で意見交換
R 5. 2. 8 R 5. 2. 9	視 察	三重県桑名市総合医療センターの取り組み
R 5. 5. 21	分野別意見交換会	「地域医療の在り方について」をテーマに3師会と意見交換

3. 調査報告と提案

(1) 地域別意見交換会「病院経営の指定管者理制度導入に対する不安の声」

地域別意見交換会では現病院職員の処遇等に関する不安や民営化に対する不安の声があった。

(2-1) 視察「再編統合による新病院ができるまでの過程」

視察に行った桑名市では、桑名市民病院が老朽化し建替える必要があったが慢性的な赤字経営だった。また、同市には2つの老朽化した民間病院があるがいずれも自力

で建替える意思が無いことから3つの病院が共倒れになる可能性があった。事態を憂いた医師会や県、三重大学との協議の結果、3つの病院を再編統合して、400床の中核病院を整備することになった。まず、桑名市民病院と和心会平田循環器病院が統合し地方独立行政法人桑名市民病院と同分院になり、その後山本総合病院と統合して合計622床の地方独立行政法人桑名総合医療センターと分院になり運営を同独立行政法人が担う事になった。その後旧山本病院跡地に新病院を着工し、平成30年1月に現在の病院が竣工した。そして同年5月に3病院を統合し400床の地方独立行政法人桑名市総合医療センターが開院した。

(2-2) 成功の秘訣

病院関係者によると、同病院の運営がうまくいっているのは理事長の人脈や経営手腕によるところが大きいとの事だった。理事長は三重大学病院長という要職をなげうって現職に着任しており、その思いに応えようとする医師会等の関係者や人柄に魅せられた医師や看護師などの医療従事者、県や市の関係者などの協力が得られたのだろうと思う。理事長のお話を伺い、病院経営を取り巻く環境の変化についていくには、経営感覚を持ったトップと即断できる環境が必要だと感じた。

(3) 分野別意見交換会「病院の規模」

箕面市の医師会、薬剤師会、歯科医師会との意見交換の場でも、現市立病院の病床数や診療科目数では安心して患者さんを送れないとの発言があった。また、桑名市総合医療センター理事長も地域が求める自己完結型の急性期病院は400床規模が必要との見解であった。

4. おわりに

箕面市の3師会との分野別意見交換会や行政視察で訪れた桑名市総合医療センターでも、地域が求める二次医療ができる自己完結型の急性期病院は400床程度の規模が必要であることが分かった。新市立病院を同規模の病院にするためには再編統合制度を活用し、統合先の医療法人を指定管理者として病院運営を任せることになるのも再認識できた。新市立病院が箕面市の中核病院として成功するためには箕面市の3師会の支持を得ることが大切だが、3師会とも公設民営でも必要な規模の病院になることを望んでいることが分かった。後は医師を派遣してくれる阪大医学部との親和性のある医療法人であれば良いと思う。また、桑名市総合医療センターでも3つの病院職員が共に働くこととなり、それぞれの職場文化の違いを埋めるのに苦心していることが確認できた。新市立病院でも苦労があると思うが桑名市総合医療センターのように課題解消に向け努力してほしい。